

*** キリスト教学特殊講義 1 * * * * *** S. Ashina

第1講: 聖書 - キリスト教思想の源流 -

第2講: 古代 - キリスト教教理の形成過程 -

1. 国教化 2. 正統と異端 3. 三位一体論 4. キリスト論

1. 国教化

1. コンスタンティヌス大帝による宗教政策の転換とその帰結
 迫害から国教化へ(4世紀)
2. 古代の神学類型(ストア的)
 三種の神々: 詩人による、哲学者による、国家の指導者による
 (アウグスティヌス『神の国』)
 神話的神学、哲学的神学(自然的)、国家的神学
3. 国家的政治的神学への展開
 ローマ帝国の秩序の擁護
 絶対的な唯一神論による神と皇帝の相関:
 地上の一人の王に対する天上の一人の王
 キリストの平和とローマの平和との結合
 cf. 三位一体論の意義(モルトマン)
 歴史神学(新しい歴史的段階への展開の排除)、戦争論(正戦論)

2. 正統と異端

4. キリスト教の内的論理と外的論理
 内的: 多様性と統一性のバランス
 外的: 国教としての宗教
5. 「正統 - 異端」図式をどんな問題設定で論じるか?

< 文献 >

1. モルトマン・メッツ 『政治的宗教と政治的神学』(新教出版社)
2. モルトマン 『三位一体と神の国』(新教出版社)
3. エウセビオス『教会史』(山本書店)
4. トレルチ 『古代キリスト教の社会教説』(教文館)
5. パイシュラーク『キリスト教教義史概説 上下』(教文館)
6. 霜田美樹雄『キリスト教は如何にしてローマに広がったか』(早稲田大学出版部)
7. 講談社キリスト教史 ダニエルー『1 初代教会』 マルー『2 教父時代』
8. Marta Sordi, The Christians and the Roman Empire(tr. by Annabel Bedini), Routledge 1988
9. Ingolf Ulrich Dalferth, Theology and Philosophy, Oxford 1988

< キリシト教と文化 >

キリシト教とローマ帝国(国教化・正統と異端)

6. 「キリシト教と文化」: 多様な関係性 類型論

単純化できない複合的な関係性

H. Richard Niebuhr, Christ and Culture, Harper & Brothers 1951

1. Christ Against Culture: Tertullian, Tolstoy
2. The Christ of Culture: Gnosticism, Abelard, Ritschl (accommodation)
3. Christ Above Culture: Thomas Aquinas (synthesis)
4. Christ and Culture in Paradox: Paul, Marcion, Luther (Dualism)
5. Christ the Transformer of Culture: The Fourth Gospel, Augustine (Conversion)

n)

7. キリシト教的文化世界の基盤としての自然法

Ernst Troeltsch, Die Soziallehren der christlichen Kirchen und Gruppen (GS.1) 1912

国家と社会をキリシト教的律法によって秩序づけられたものと見なす

相対的自然法・キリシト教的自然法

近代: 現実の歴史化

自然法的基盤の流動化

相対主義

ヨーロッパ的文化総合

大木英夫 『新しい共同体の倫理学 基礎編上下』(教文館)

8. 「文化の神学」の可能性

類型論、ヨーロッパ主義(Europäismus)を超えて

9. テイリッヒの場合(『テイリッヒ著作集7』白水社)

意味の分析(意味の形而上学)から、宗教と文化の関係性の構築へ

文化: 意味形式・意味世界

宗教: 意味根拠(根底と深淵)

正当化と批判

10. 理論構築と具体的各論

宗教的多元性

宗教と科学技術